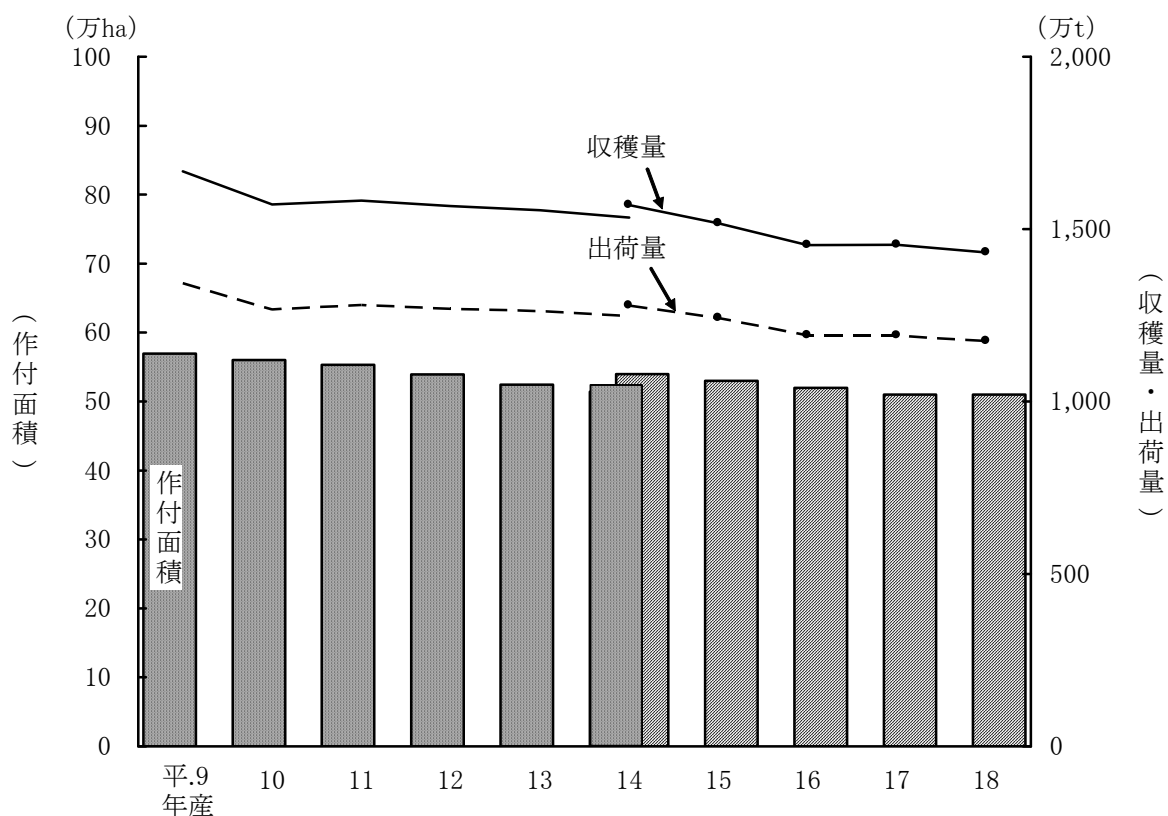


1 要 旨

平成18年産の野菜（39品目）の作付面積は50万5,500ha、収穫量は1,432万4,000 t、出荷量は1,175万2,000 tであった。

図1 野菜の作付面積、収穫量及び出荷量




注) 平成14年産から葉茎菜類8品目（こまつな、ちんげんさい、ふき、みつば、アスパラガス、しゅんぎく、にら及びにんにく）、果菜類（そらまめ）、香辛野菜（しょうが）を新たに追加し、39品目となったため、図中、平成14年産については29品目で再集計して過去8年間と同様に表し、平成14年産以降、39品目計の作付面積を「」、収穫量及び出荷量を「・」で表した。

表1 平成18年産野菜の作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作 付 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比					
					作付面積	10a当たり 収 量	収穫量	出荷量						
計	505 500	ha	-	kg	14 324 000	t	11 752 000	t	99	-	98	99	%	-
根 菜 類	184 800		-		5 645 000		4 502 000		99	-	98	98		-
だいこん	38 300		4 310		1 650 000		1 264 000		98	103	101	101		103
かぶ	5 390		2 800		150 700		119 800		99	100	98	99		97
にんじん	18 800		3 320		624 100		548 200		99	102	101	102		105
ごぼう	8 690		1 830		159 300		130 900		99	99	99	98		103
れんこん	4 130		1 410		58 400		46 800		99	92	91	91		90
ばれいしょ (じゃがいも)	86 600		3 040		2 635 000		2 135 000		100	96	96	95		95
さいとうもろこし	14 400		1 210		174 700		102 700		96	98	95	95		98
やまのいも	8 540		2 250		192 200		154 300		98	97	94	94		103
葉 茎 菜 類	179 200		-		5 320 000		4 475 000		99	-	102	103		-
はくさい	19 300		4 890		942 300		714 600		97	105	102	102		105
こまつな	5 650		1 610		90 800		74 800		101	103	103	103		97
キャベツ	33 000		4 160		1 372 000		1 181 000		99	102	101	102		103
ちんげんさい	2 330		2 080		48 600		41 500		98	99	97	97		97
ほうれんそう	23 300		1 280		298 800		239 800		98	102	100	100		99
ふき	690		2 450		16 900		13 700		86	116	99	100		102
みつば	1 240		1 480		18 400		17 200		96	102	99	99		101
しゅんぎく	2 490		1 620		40 400		31 900		98	100	99	99		98
セルリー	686		5 110		35 100		33 200		101	99	101	101		98
アスパラガス	6 380		443		28 200		24 300		100	100	100	100		100
カリフラワー	1 390		1 900		26 500		20 900		97	107	104	105		105
ブロッコリー	11 400		1 070		122 000		105 900		107	108	116	117		105
レタ	20 900		2 600		545 400		510 600		97	101	99	101		104
ねぎ	22 700		2 160		491 900		378 800		98	101	100	99		101
にら	2 200		2 850		62 700		56 000		101	101	103	103		96
たまねぎ	23 600		4 920		1 161 000		1 019 000		103	104	107	108		102
にんにく	1 950		977		19 100		11 600		101	104	104	105		100
果 菜 類	110 100		-		2 495 000		2 021 000		98	-	94	94		-
きゅうり	13 100		4 800		628 500		526 300		98	96	93	93		97
かぼち	16 900		1 310		220 400		166 100		100	94	94	94		94
なす	11 100		3 350		371 900		275 200		97	97	94	94		97
トマト	12 900		5 660		728 300		642 200		99	97	96	96		97
ピーマン	3 540		4 150		146 800		125 300		98	98	95	96		101
スイートコーン	25 400		909		231 400		176 700		98	94	92	92		93
さやいんげん	7 220		677		48 900		30 500		97	96	93	93		95
さやえんどう	4 460		608		27 100		16 700		96	97	93	93		96
そらまめ	2 540		798		20 300		14 400		94	94	88	87		95
えだまめ	12 900		548		71 000		47 700		99	93	92	92		90
香 辛 野 菜														
しょうが	1 810		2 110		38 100		26 700		98	98	97	97		99
果 実 的 野 菜	29 600		-		826 000		727 000		96	-	93	93		-
いちご	6 790		2 810		190 700		172 700		99	99	97	97		100
メロン	9 830		2 200		216 600		197 200		95	95	90	90		97
すいか	13 000		3 220		418 700		357 100		97	96	93	93		96

2 指定野菜の品目別の概要

(1) だいこん

ア 作付面積

作付面積は3万8,300haで、前年産に比べて800ha（前年産対比2%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,310kgで、前年産を3%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は165万tで、前年産に比べて2万3,000t（同1%）増加した。

出荷量は126万4,000tで、前年産に比べて1万6,000t（同1%）増加した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春だいの作付面積は4,970haで、前年産並みであった。

10a 当たり収量は4,650kgで、前年産に比べて4%下回った。これは、春先の低温、日照不足により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は23万1,100tで、前年産に比べて8,500t（同4%）減少し、出荷量は20万2,200tで、前年産に比べて8,000t（同4%）減少した。

(イ) 夏だいの作付面積は7,800haで、前年産に比べて150ha（同2%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模の縮小等があったためである。

10a 当たり収量は3,640kgで、前年産に比べて5%上回った。これは、8月以降天候に恵まれ肥大が良好となったためである。

この結果、収穫量は28万3,900tで、前年産に比べて8,100t（同3%）増加し、出荷量は25万2,300tで、前年産に比べて8,900t（同4%）増加した。

(ウ) 秋冬だいの作付面積は2万5,500haで、前年産に比べて600ha（同2%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模の縮小等があったためである。

10a 当たり収量は4,460kgで、前年産を5%上回った。これは、は種期以降が比較的天候に恵まれ肥大が良好となったためである。

この結果、収穫量は113万5,000tで、前年産に比べて2万3,000t（同2%）増加し、出荷量は80万9,400tで、前年産に比べて1万5,000t（同2%）増加した。

図2 だいこんの作付面積及び収穫量の推移

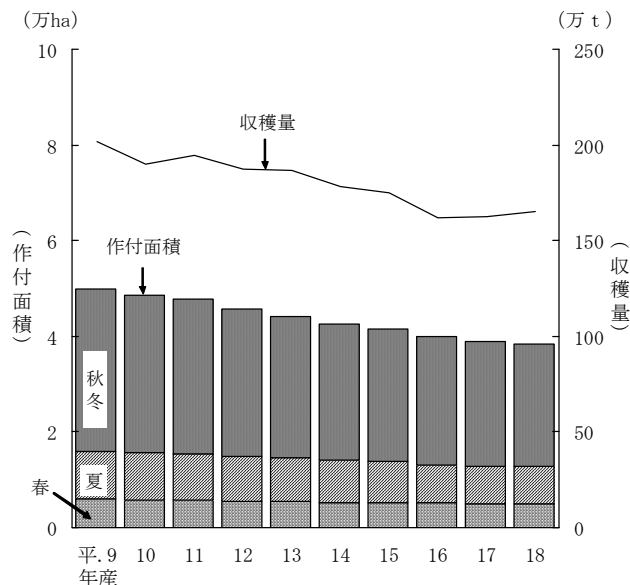


表2 平成18年産だいこんの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積 ha	10a 当たり収 kg	収 穫 量 t	出 荷 量 t	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比 %
					作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
だい こん	38 300	4 310	1 650 000	1 264 000	98	103	101	101	103
春	4 970	4 650	231 100	202 200	100	96	96	96	98
夏	7 800	3 640	283 900	252 300	98	105	103	104	108
秋 冬	25 500	4 460	1 135 000	809 400	98	105	102	102	103

(2) にんじん

ア 作付面積

作付面積は1万8,800haで、前年産に比べて200ha（前年産対比1%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は3,320kgで、前年産を2%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は62万4,100tで、前年産に比べて9,200t（同1%）増加した。

出荷量は54万8,200tで、前年産に比べて8,500t（同2%）増加した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春夏にんじんの作付面積は4,130haで、前年産に比べて110ha（同3%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模の縮小等があったためである。

10a当たり収量は3,620kgで、前年産を3%上回った。これは、は種期以降、日照不足により生育が抑制されたが、その後天候が回復し生育が良好となったためである。

この結果、収穫量は14万9,800tで、前年産に比べて900t（同1%）増加し、出荷量は13万1,600tで、前年産に比べて2,000t（同1%）減少した。

(イ) 秋にんじんの作付面積は6,390haで、前年産並みであった。

10a当たり収量は2,930kgで、前年産を8%下回った。これは、北海道で低温、日照不足に加え、少雨の影響により肥大が抑制されたことや、病害の発生があったためである。

この結果、収穫量は18万7,200tで、前年産に比べて1万7,900t（同9%）減少し、出荷量は16万9,900tで、前年産に比べて1万4,700t（同8%）減少した。

(ウ) 冬にんじんの作付面積は8,270haで、前年産に比べて80ha（同1%）減少した。

10a当たり収量は3,470kgで、前年産を11%上回った。これは、は種期以降、比較的天候に恵まれ肥大が良好であったためである。

この結果、収穫量は28万7,000tで、前年産に比べて2万6,000t（同10%）増加し、出荷量は24万6,700tで、前年産に比べて2万5,200t（同11%）増加した。

図3 にんじんの作付面積及び収穫量の推移

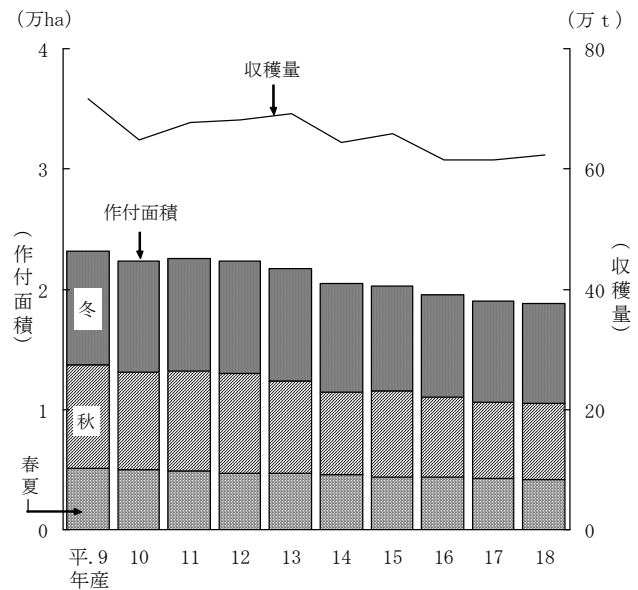


表3 平成18年産にんじんの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
にんじん	ha	kg	t	t					%
春夏	4 130	3 620	149 800	131 600	97	103	101	99	101
秋	6 390	2 930	187 200	169 900	100	92	91	92	100
冬	8 270	3 470	287 000	246 700	99	111	110	111	111

(3) ばれいしょ（じゃがいも）

ア 作付面積

作付面積は8万6,600haで、前年産並みであった。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は3,040kgで、前年産を4%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は263万5,000tで、前年産に比べて11万7,000t（前年産対比4%）減少した。

出荷量は213万5,000tで、前年産に比べて10万7,000t（同5%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春植えばれいしょの作付面積は8万3,600haで、前年産並みであった。

10a 当たり収量は3,100kgで、前年産

を4%下回った。これは、北海道で7月下旬から8月上旬の少雨と、8月以降の高温により生育が停滞したためである。

この結果、収穫量は259万tで、前年産に比べて12万2,000t（同4%）減少し、出荷量は210万4,000tで、前年産に比べて11万1,000t（同5%）減少した。

(イ) 秋植えばれいしょの作付面積は2,930haで、前年産に比べて40ha（同1%）増加した。

10a 当たり収量は1,560kgで、前年産を11%上回った。これは、長崎県等で台風第13号の強風により茎葉の損傷があったものの、その後天候に恵まれ生育が順調に推移したためである。

この結果、収穫量は4万5,700tで、前年産に比べて5,100t（同13%）増加し、出荷量は3万1,500tで、前年産に比べて4,700t（同18%）増加した。

図4 ばれいしょ（じゃがいも）の作付面積及び収穫量の推移

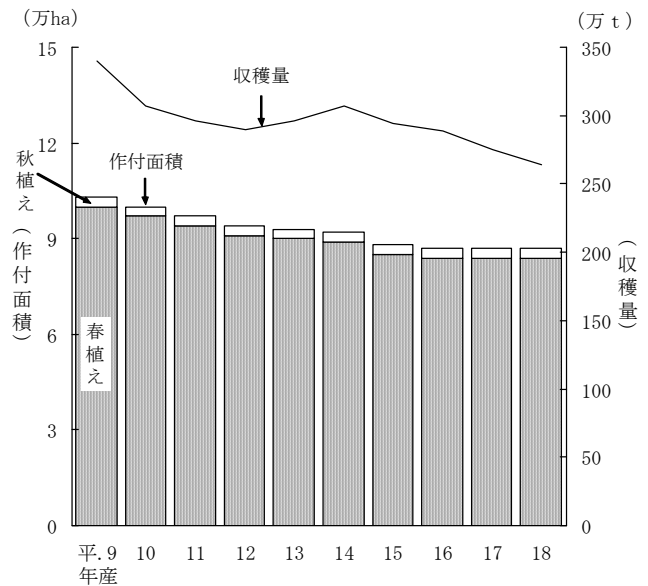


表4 平成18年産ばれいしょ(じゃがいも)の作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a 当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比 (%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収	収穫量	出荷量	
ばれいしょ (じゃがいも)	ha	kg	t	t					%
	86 600	3 040	2 635 000	2 135 000	100	96	96	95	95
春植え	83 600	3 100	2 590 000	2 104 000	100	96	96	95	95
秋植え	2 930	1 560	45 700	31 500	101	111	113	118	100

(4) さといも

ア 作付面積

作付面積は1万4,400haで、前年産に比べて600ha（前年産対比4%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,210kgで、前年産を2%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は17万4,700tで、前年産に比べて9,800t（同5%）減少した。

出荷量は10万2,700tで、前年産に比べて5,800t（同5%）減少した。

エ 季節区別の概況

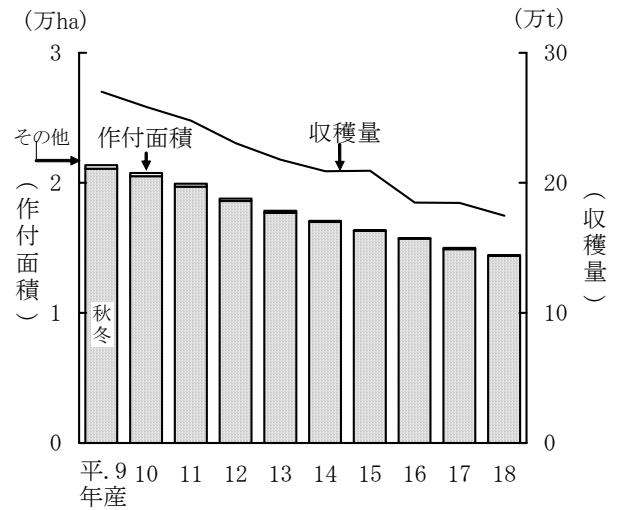
秋冬さといもの作付面積は1万4,400haで、前年産に比べて500ha（同3%）減少した。これは、千葉県等で労働力事情による規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は1,210kgで、前年産

を2%下回った。これは、6月から7月の日照不足により着いも数が少なかったこと、8月の高温・少雨の影響から肥大が抑制されたためである。

この結果、収穫量は17万4,300tで、前年産に比べて9,900t（同5%）減少し、出荷量は10万2,500tで、前年産に比べて5,800t（同5%）減少した。

図5 さといもの作付面積及び収穫量の推移



注：平成9年産から野菜生産出荷安定法施行令の一部改正に伴い、主たる出荷期間を秋冬さといもは8月～3月を6月～3月、その他さといもは4月～7月を4月～5月に変更した。

表5 平成18年産さといもの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり 収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当たり 収	収 穫 量	出 荷 量	
さといも	ha	kg	t	t					%
うち、秋冬	14 400	1 210	174 700	102 700	96	98	95	95	98
	14 400	1 210	174 300	102 500	97	98	95	95	98

(5) はくさい

ア 作付面積

作付面積は1万9,300haで、前年産に比べて500ha（前年産対比3%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,890kgで、前年産を5%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は94万2,300tで、前年産に比べて1万8,000t（同2%）増加した。

出荷量は71万4,600tで、前年産に比べて1万2,400t（同2%）増加した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春はくさいの作付面積は1,930haで、前年産に比べて50ha（同3%）減少した。これは、生産者の労働力事情による規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は5,870kgで、前年産を3%上回った。これは、定植期以降が比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は11万3,100t、出荷量は10万tで、ともに前年産並みであった。

(イ) 夏はくさいの作付面積は2,890haで、前年産に比べて90ha（同3%）減少した。これは、近年の価格低迷による他の野菜への転換等があったためである。

10a当たり収量は5,870kgで、前年産を2%下回った。これは、長野県等で7月中旬から下旬の降雨による病害の発生や、8月の少雨の影響により小玉傾向となったためである。

この結果、収穫量は16万9,600tで、前年産に比べて9,300t（同5%）減少し、出荷量は15万100tで、前年産に比べて6,500t（同4%）減少した。

(ウ) 秋冬はくさいの作付面積は1万4,400haで、前年産に比べて400ha（同3%）減少した。これは、茨城県等で労働力事情による規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は4,570kgで、前年産を7%上回った。これは、は種・定植期以降が比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は65万9,600tで、前年産に比べて2万7,000t（同4%）増加し、出荷量は46万4,500tで、前年産に比べて1万8,700t（同4%）増加した。

図6 はくさいの作付面積及び収穫量の推移

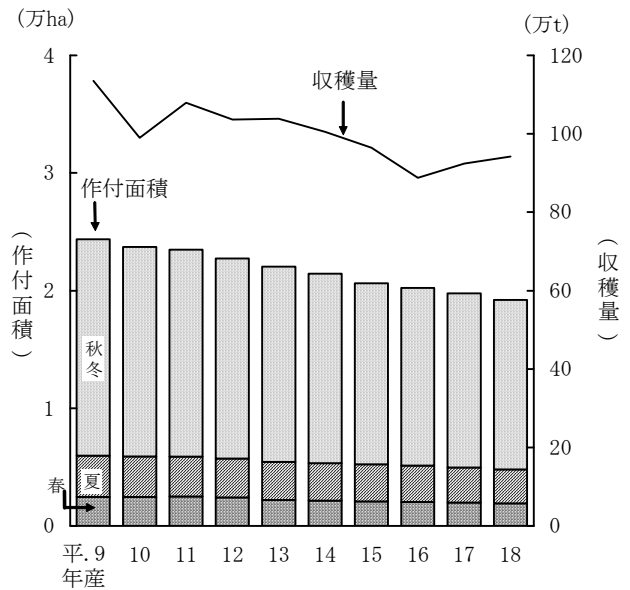


表6 平成18年産はくさいの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
はくさい	ha	kg	t	t					%
	19 300	4 890	942 300	714 600	97	105	102	102	105
春	1 930	5 870	113 100	100 000	97	103	100	100	102
夏	2 890	5 870	169 600	150 100	97	98	95	96	100
秋冬	14 400	4 570	659 600	464 500	97	107	104	104	107

(6) キャベツ

ア 作付面積

作付面積は3万3,000haで、前年産に比べて500ha（前年産対比1%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,160kgで、前年産を2%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は137万2,000tで、前年産に比べて8,000t（同1%）増加した。

出荷量は118万1,000tで、前年産に比べて2万t（同2%）増加した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春キャベツの作付面積は8,570haで、前年産に比べて230ha（同3%）減少した。これは、他の野菜からの転換による

増加はあったものの、労働力事情による規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は4,000kgで、前年産を1%下回った。

この結果、収穫量は34万3,000tで、前年産に比べて1万3,900t（同4%）減少し、出荷量は29万5,400tで、前年産に比べて6,900t（同2%）減少した。

(イ) 夏秋キャベツの作付面積は1万200haで、前年産に比べて200ha（同2%）減少した。これは、他の野菜への転換や労働力事情による規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は4,300kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、8月の少雨により小玉傾向であったものの、その後天候に恵まれ肥大が良好となったためである。

この結果、収穫量は43万9,000tで、前年産に比べて2,900t（同1%）減少したが、出荷量は37万8,100tで、産地廃棄があった前年産に比べて1万2,000t（同3%）増加した。

(ウ) 冬キャベツの作付面積は1万4,200haで、前年産並みであった。

10a当たり収量は4,160kgで、前年産を5%上回った。これは、は種・定植期以降が比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は58万9,900tで、前年産に比べて2万4,300t（同4%）増加し、出荷量は50万8,000tで、前年産に比べて1万5,500t（同3%）増加した。

図7 キャベツの作付面積及び収穫量の推移

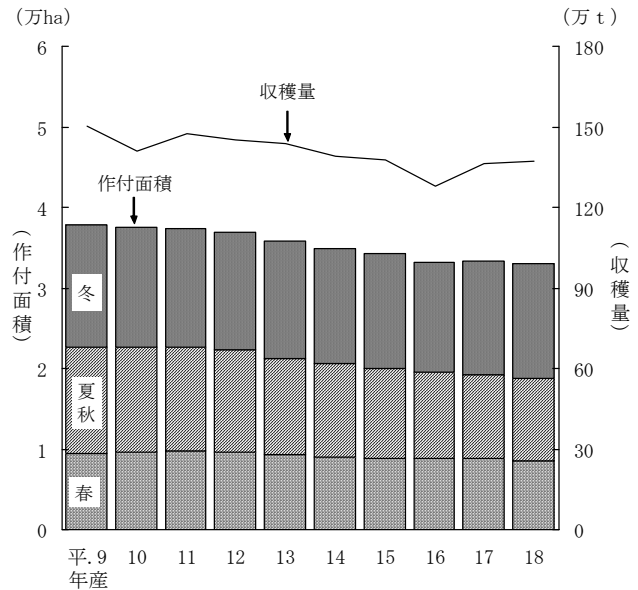


表7 平成18年産キャベツの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積 ha	10a 当たり 収 量 kg	収 穫 量 t	出 荷 量 t	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比 %
					作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
キャベツ	33 000	4 160	1 372 000	1 181 000	99	102	101	102	103
春	8 570	4 000	343 000	295 400	97	99	96	98	100
夏 秋	10 200	4 300	439 000	378 100	98	102	99	103	108
冬	14 200	4 160	589 900	508 000	100	105	104	103	105

(7) ほうれんそう

ア 作付面積

作付面積は2万3,300haで、前年産に比べて400ha（前年産対比2%）減少した。これは、労働力事情による規模縮小等があったためである。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,280kgで、前年産を2%上回った。これは、春どりは低温、日照不足の影響から生育は抑制されたものの、秋どり以降の生育は比較的天候に恵まれ順調であったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は29万8,800tで、前年産並みであった。

出荷量は23万9,800tで、前年産並みであった。

図8 ほうれんそうの作付面積及び収穫量の推移

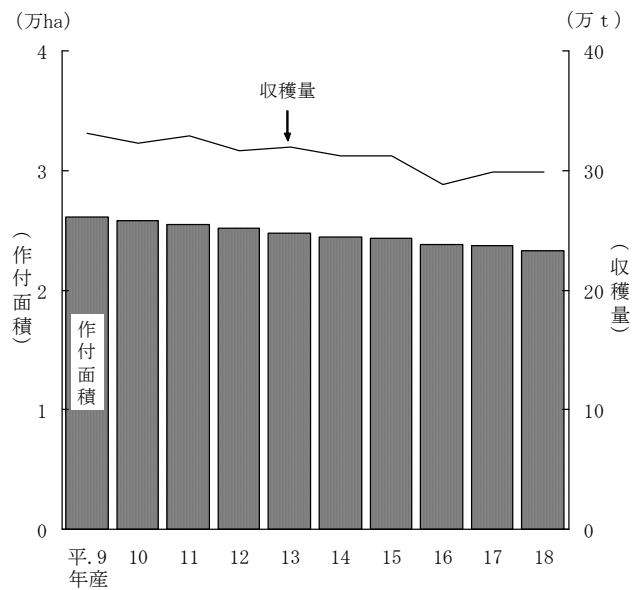


表8 平成18年産ほうれんそうの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
ほうれんそう	ha	kg	t	t					%
	23 300	1 280	298 800	239 800	98	102	100	100	99

(8) レタス

ア 作付面積

作付面積は2万900haで、前年産に比べて600ha（前年産対比3%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,600kgで、前年産を1%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は54万5,400tで、前年産に比べて6,300t（同1%）減少した。

出荷量は51万600tで、前年産に比べて4,100t（同1%）増加した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春レタスの作付面積は4,400haで、前年産に比べて30ha（同1%）減少した。これは、労働力事情による規模縮小や他の野菜への転換等があったためである。

10a当たり収量は2,600kgで、前年産を2%下回った。これは、低温、日照不足の影響から小玉傾向であったためである。

この結果、収穫量は11万4,500tで、前年産に比べて3,600t（同3%）減少し、出荷量は10万7,200tで、前年産に比べて2,200t（同2%）減少した。

(イ) 夏秋レタスの作付面積は8,590haで、前年産に比べて280ha（同3%）減少した。これは、長野県等で、労働力事情による規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は2,790kgで、前年産並みであった。

この結果、収穫量は24万tで、前年産に比べて8,400t（同3%）減少したが、出荷量は22万9,800tで、長野県で産地廃棄があった前年産に比べて2,900t（同1%）増加した。

(ウ) 冬レタスの作付面積は7,960haで、前年産に比べて210ha（同3%）減少した。これは、労働力事情による規模縮小等や、茨城県で夏秋レタスへの移行があったためである。

10a当たり収量は2,400kgで、前年産を6%上回った。これは、は種・定植期以降が比較的天候にめぐまれたためである。

この結果、収穫量は19万900tで、前年産に比べて5,600t（同3%）増加し、出荷量は17万3,600tで、前年産に比べて3,500t（同2%）増加した。

図9 レタスの作付面積及び収穫量の推移

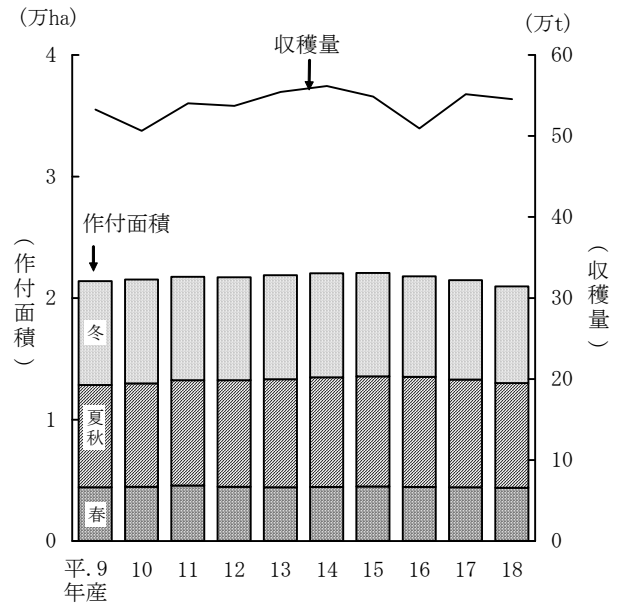


表9 平成18年産レタスの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
レタス	ha	kg	t	t					%
	20 900	2 600	545 400	510 600	97	101	99	101	104
春	4 400	2 600	114 500	107 200	99	98	97	98	96
夏秋	8 590	2 790	240 000	229 800	97	100	97	101	106
冬	7 960	2 400	190 900	173 600	97	106	103	102	107

(9) ねぎ

ア 作付面積

作付面積は2万2,700haで、前年産に比べて400ha（前年産対比2%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,160kgで、前年産を1%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は49万1,900tで、前年産並みであった。

出荷量は37万8,800tで、前年産に比べて2,000t（同1%）減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春ねぎの作付面積は3,410haで、前年産に比べて90ha（同3%）増加した。これは、千葉県等で他の野菜からの転換等による増加があったためである。

10a当たり収量は2,310kgで、前年産を8%下回った。これは、千葉県等で低温、日照不足等で生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は7万8,700tで、前年産に比べて4,300t（同5%）減少し、出荷量は6万8,200tで、前年産に比べて3,100t（同4%）減少した。

(イ) 夏ねぎの作付面積は5,000haで、前年産に比べて160ha（同3%）減少した。これは、他の野菜への転換や労働力事情による規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は1,870kgで、前年産を5%下回った。これは、日照不足の影響や病害の発生があったためである。

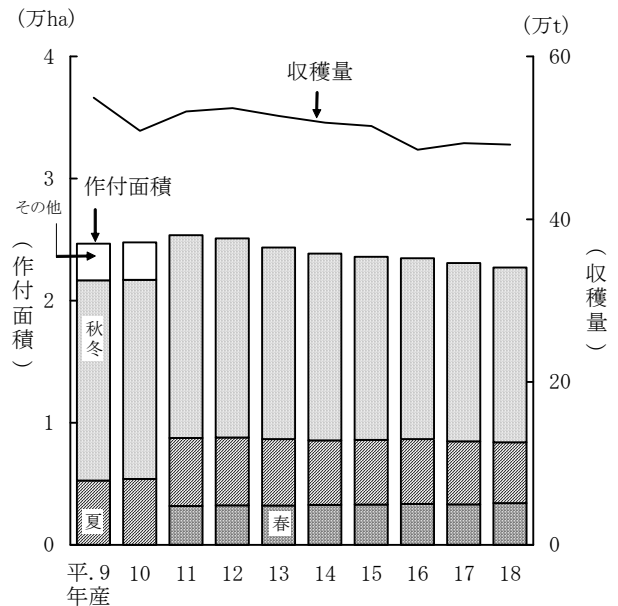
この結果、収穫量は9万3,500tで、前年産に比べて7,800t（同8%）減少し、出荷量は7万9,600tで、前年産に比べて6,100t（同7%）減少した。

(ウ) 秋冬ねぎの作付面積は1万4,300haで、前年産に比べて300ha（同2%）減少した。これは、他の野菜への転換や労働力事情による規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は2,230kgで、前年産を5%上回った。これは、定植期以降が比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は31万9,700tで、前年産に比べて1万500t（同3%）増加し、出荷量は23万1,100tで、前年産に比べて7,300t（同3%）増加した。

図10 ねぎの作付面積及び収穫量の推移



注：春ねぎは、野菜生産出荷安定法施行令（昭和41年政令第224号）の一部改正により平成11年産から新たに調査対象となった。

表10 平成18年産ねぎの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積 ha	10a当たり収 量 kg	収 穫 量 t	出 荷 量 t	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比 %
					作付面積	10a当たり収 量	収 穫 量	出 荷 量	
ね ぎ	22 700	2 160	491 900	378 800	98	101	100	99	101
春	3 410	2 310	78 700	68 200	103	92	95	96	92
夏	5 000	1 870	93 500	79 600	97	95	92	93	95
秋 冬	14 300	2 230	319 700	231 100	98	105	103	103	105

(10) たまねぎ

ア 作付面積

作付面積は2万3,600haで、前年産に比べて600ha（前年産対比3%）増加した。これは、近年価格が安定していることにより他の野菜等からの転換等があったためである。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,920kgで、前年産を4%上回った。これは、適度の降雨があり肥大が良好となったためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は116万1,000 t で、前年産に比べて7万4,000 t（同7%）増加した。

出荷量は101万9,000 t で、前年産に比べて7万4,600 t（同8%）増加した。

図11 たまねぎの作付面積及び収穫量の推移

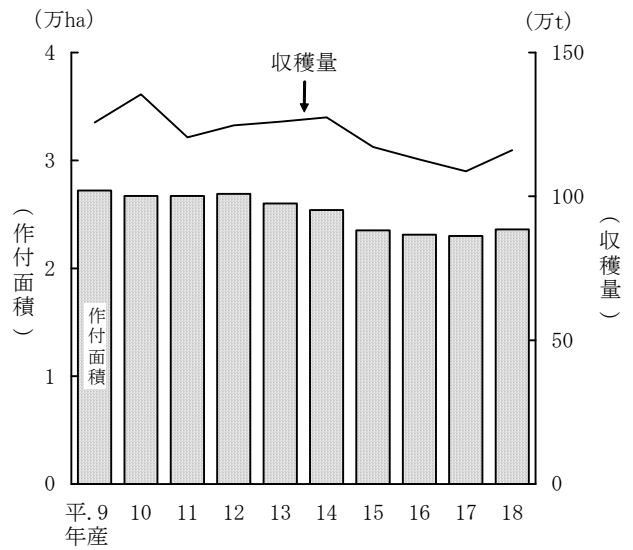


表11 平成18年産たまねぎの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10 a 当たり 収 取	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当たり 収 取	収 穫 量	出 荷 量	
たまねぎ	ha 23 600	kg 4 920	t 1 161 000	t 1 019 000	103	104	107	108	% 102

(11) きゅうり

ア 作付面積

作付面積は1万3,100haで、前年産に比べて300ha（前年産対比2%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,800kgで、前年産を4%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は62万8,500tで、前年産に比べて4万6,100t（同7%）減少した。

出荷量は52万6,300tで、前年産に比べて4万t（同7%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春きゅうりの作付面積は3,380ha

で、前年産に比べて110ha（同3%）減少した。これは、労働力事情と原油価格

の高騰による規模縮小や、夏秋きゅうりへの移行等があったためである。

10a当たり収量は9,460kgで、前年産に比べて5%下回った。これは、低温、日照不足で着果数の減少や肥大が抑制されたこと、原油価格の高騰から十分な加温ができなかったためである。

この結果、収穫量は31万9,400tで、前年産に比べて3万200t（同9%）減少し、出荷量は29万6,200tで、前年産に比べて2万8,000t（同9%）減少した。

(イ) 夏秋きゅうりの作付面積は9,710haで、前年産に比べて240ha（同2%）減少した。これは、労働力事情による規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は3,180kgで、前年産を3%下回った。これは、低温、日照不足により生育が抑制されたためである。

この結果、収穫量は30万9,100tで、前年産に比べて1万5,900t（同5%）減少し、出荷量は23万100tで、前年産に比べて1万2,000t（同5%）減少した。

図12 きゅうりの作付面積及び収穫量の推移

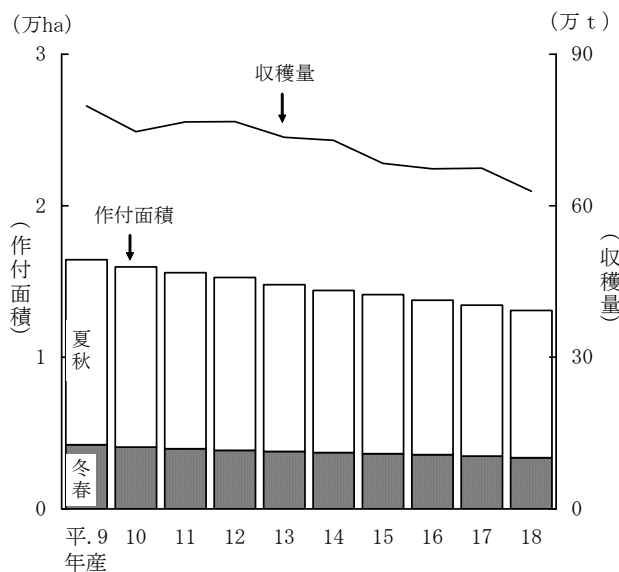


表12 平成18年産きゅうりの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
きゅうり	ha	kg	t	t					%
冬春	3 380	9 460	319 400	296 200	97	95	91	91	95
夏秋	9 710	3 180	309 100	230 100	98	97	95	95	97

(12) なす

ア 作付面積

作付面積は1万1,100haで、前年産に比べて300ha（前年産対比3%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は3,350kgで、前年産を3%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は37万1,900tで、前年産に比べて2万3,800t（同6%）減少した。

出荷量は27万5,200tで、前年産に比べて1万8,400t（同6%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春なすの作付面積は1,450haで、前年産に比べて30ha（同2%）増加した。

10a当たり収量は9,780kgで、前年産を5%下回った。これは、重油価格の高騰により十分な加温ができなかったこと、日照不足等から肥大が抑制されたためである。

この結果、収穫量は14万1,300tで、前年産に比べて4,600t（同3%）減少し、出荷量は13万2,100tで、前年産に比べて5,300t（同4%）減少した。

(イ) 夏秋なすの作付面積は9,670haで、前年産に比べて320ha（同3%）減少した。これは、労働力事情による規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は2,390kgで、前年産を4%下回った。これは、日照不足による生育の抑制や、病害の発生があったためである。

この結果、収穫量は23万600tで、前年産に比べて1万9,200t（同8%）減少し、出荷量は14万3,100tで、前年産に比べて1万3,100t（同8%）減少した。

図13 なすの作付面積及び収穫量の推移

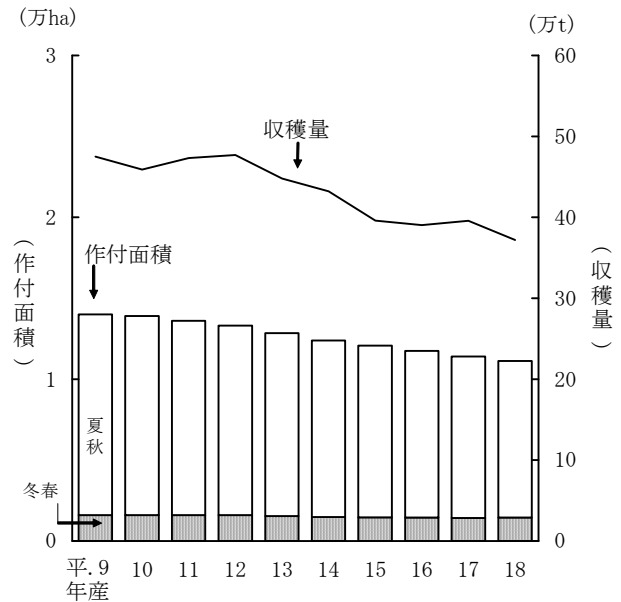


表13 平成18年産なすの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
なす	ha	kg	t	t					%
冬春	1 450	9 780	141 300	132 100	102	95	97	96	95
夏秋	9 670	2 390	230 600	143 100	97	96	92	92	95

(13) トマト

ア 作付面積

作付面積は1万2,900haで、前年産に比べて100ha（前年産対比1%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,660kgで、前年産を3%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は72万8,300tで、前年産に比べて3万900t（同4%）減少した。

出荷量は64万2,200tで、前年産に比べて2万5,900t（同4%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春トマトの作付面積は4,120haで、前年産に比べて50ha（同1%）減少した。

10a当たり収量は9,200kgで、1%下回った。

この結果、収穫量は37万8,700tで、前年産に比べて8,100t（同2%）減少し、出荷量は35万3,200tで、前年産に比べて9,500t（同3%）減少した。

(イ) 夏秋トマトの作付面積は8,750haで、前年産並みであった。

10a当たり収量は4,000kgで、前年産を6%下回った。これは、低温、日照不足による生育の抑制や、病害の発生があったためである。

この結果、収穫量は34万9,600tで、前年産に比べて2万2,800t（同6%）減少し、出荷量は28万9,000tで、前年産に比べて1万6,400t（同5%）減少した。

図14 トマトの作付面積及び収穫量の推移

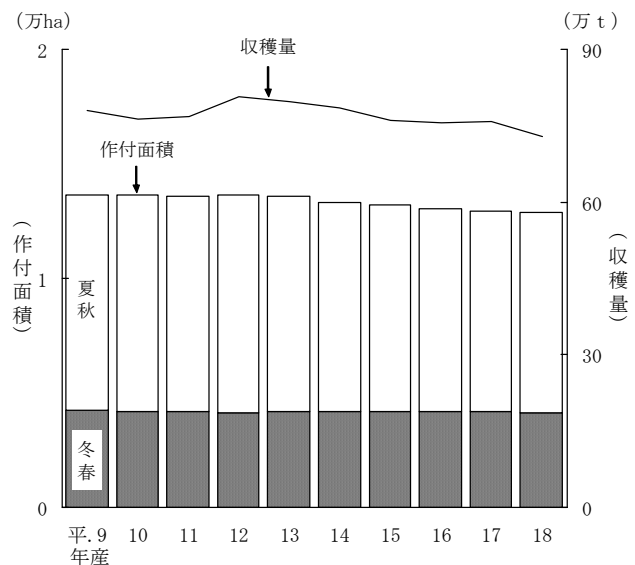


表14 平成18年産トマトの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
ト マ ト	ha	kg	t	t					%
ト マ ト	12 900	5 660	728 300	642 200	99	97	96	96	97
冬 春	4 120	9 200	378 700	353 200	99	99	98	97	99
夏 秋	8 750	4 000	349 600	289 000	100	94	94	95	95

(14) ピーマン

ア 作付面積

作付面積は3,540haで、前年産に比べて80ha（前年産対比2%）減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,150kgで、前年産を2%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は14万6,800tで、前年産に比べて7,000t（同5%）減少した。

出荷量は12万5,300tで、前年産に比べて5,800t（同4%）減少した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春ピーマンの作付面積は815haで、前年産に比べて11ha（同1%）減少した。

10a当たり収量は9,370kgで、前年産を1%下回った。

この結果、収穫量は7万6,300tで、前年産に比べて2,100t（同3%）減少し、出荷量は7万1,400tで、前年産に比べて2,400t（同3%）減少した。

(イ) 夏秋ピーマンの作付面積は2,730haで、前年産に比べて60ha（同2%）減少した。これは、労働力事情による規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は2,580kgで、前年産を4%下回った。これは、低温、日照不足による生育の抑制や、病害の発生があったためである。

この結果、収穫量は7万500tで、前年産に比べて5,000t（同7%）減少し、出荷量は5万3,900tで、前年産に比べて3,400t（同6%）減少した。

図15 ピーマンの作付面積及び収穫量の推移

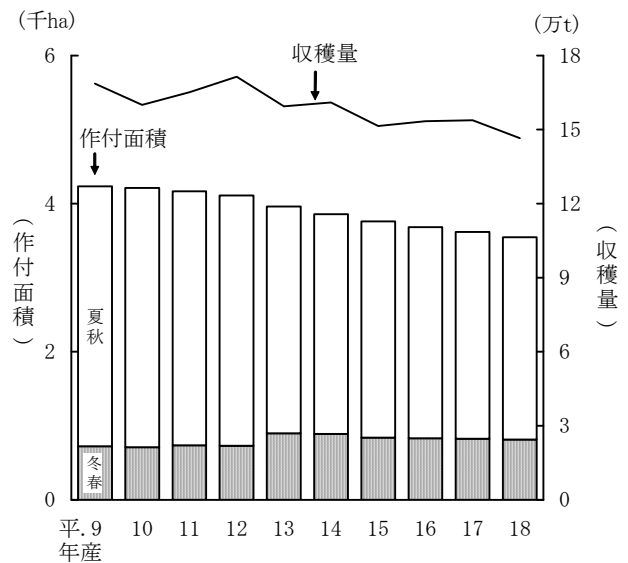


表15 平成18年産ピーマンの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
ピーマン	ha	kg	t	t					%
	3 540	4 150	146 800	125 300	98	98	95	96	101
冬春	815	9 370	76 300	71 400	99	99	97	97	98
夏秋	2 730	2 580	70 500	53 900	98	96	93	94	98